

岐阜大学大学院  
工学研究科

岐阜大学・インド工科大学グワハティ校  
国際連携統合機械工学専攻（博士課程）

学生確保の見通しを記載した書類

平成30年8月

岐阜大学

## 1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

#### ① 定員充足の見込み

インドは若年層を中心とする人口が多く、教育水準も高いことから、その大きな経済市場と豊富な労働力の供給源として国際的な強みを持ち、我が国にとっても次世代を担う優秀な人材獲得の観点から注目すべき国である。インドでは、大学に進学する優秀な人材のほとんどが理工系に進む一方で、卒業後は製造業よりも IT や金融業などに就職することが一般的であり、ものづくりに対する関心は相対的に低い。今後、貧困の削減及び爆発的な人口増加に対応すべく新たな雇用創出を考えると、若年層を中心に製造業の魅力や重要性を認識できる具体的な成功例を、インド国内でも示していくことが急務となっている。

一方、日本の製造業は、これまでに築いてきた高品質なものづくり技術に一層の磨きをかけ、世界に向けてアピールするとともに、新市場の開拓など戦略的に進めていく必要がある。岐阜大学が位置する東海地域（岐阜県，愛知県，三重県，静岡県）はわが国随一の「ものづくり圏」であり、数多くの製造企業がある。その中には、国際展開を志向する企業も多く、高い専門性を有し、かつ海外でも活躍できる工学系人材が求められている。特にインドは、これからの成長が期待される経済市場として注目されており、この国の文化・習慣を理解し活躍できる、高度な専門知識と技術を有する工学系人材が東海地域の産業界にとってますます重要になる。

こうした要請に応えるために鍵となるのは、国際的視点 (Global) と地域的視点 (Local) の両方を併せ持つ「グローバル (Glocal) な視点」から、ものづくりが直面する課題を見つけ出し、解決できる研究開発人材の育成である。このような人材育成を高等教育で実現するためには、互いに補完的な強みを持つ本学と IITG が連携し、国際連携専攻を設置することが必要である。

上述した人材を輩出するにあたり質を保証するため、機械工学に関する高い専門性を持つ教員を本学は 12 名、IITG は 49 名選抜した。多くの教員が学生に関与することが重要である。本専攻では、博士学生 1 名に対し、指導教員として少なくとも 1 名ずつの教員を岐阜大学、IITG から選定する他、学生指導委員会（指導教員を含む 6 名以上）を組織し、研究活動の助言や評価を行う。さらに論文審査を行う教員を含めると、7-10 名程度の教員が一人の博士学生に関与することになる。収容定員を 6 名（入学定員 2 名（岐阜大学側 1 名、IITG 側 1 名））とすれば、ほぼすべての教員が何らかの形で博士の指導に関わることになる。このように、入学定員 2 名は、教員数と教育の質保証の観点から妥当である。

本国際専攻の開設時に博士 1 年生になる、現在の修士課程 1 年生へのアンケートによると、本専攻や同時にスタートするマレーシア国民大学との国際専攻に興味を持つ学生は、96 名中 28 名おり、大いに興味を示している学生も 4 名いることから、岐阜大学側の定員 2 名（IITG および UKM の合計）は十分充足すると期待できる。

なお、両大学から本専攻に入学する学生数に大きな偏りは生じないものと推測されるが、生じた場合は、本専攻の合同運営委員会で協議し、入学者数を調整するなど適切な対策を講じることとする。

#### ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本専攻の第1期生に相当する自然科学技術研究科工学系の領域に所属する修士課程1年生を対象として、2017年11月初旬から15日を締め切りとして国際連携専攻についてのアンケート（資料1）を行い、340通を配布し96名分の回答を得た（資料2）。その結果、「今後の進路として、当該専攻への進学についてどう思いますか」との質問に対して、本専攻に「大いに興味がある」ものは4名（回答数に対して4%）、「やや興味がある」ものは24名（25%）であった。IITGとUKMとの国際連携専攻における岐阜大学側の定員合計2名に対して、定員を超える受験者を確保できると想定できる。上記の質問に対して、「今のところ特に興味・関心がない」と応えた者66名に対して、「どのようなことがあれば進学してみたいと思いますか」（複数回答可）を問うたところ、卒業後の就職支援（52%）、経済的支援（授業料減免、奨学金等）（38%）、英語の添削指導など語学支援（26%）が特に回答が多かった。これらの項目について具体策を検討し、絶えず周知を続けることで、学生確保に努める。

本学は本年度から日本人学生の留学前英語教育プログラム（ESL、主たる対象学年は学部1年生及び学部2年生）を新たに開始した。本学はESLを発展させたプログラムとして専門英語海外短期研修プログラム（ESP）の開講を目指し、そのニーズを調査するアンケートを平成29年6月頃に実施した。対象者は本学応用生物科学部の学部4年生、学部3年生、学部2年生と、本学工学部の学部4年生と学部3年生及び本学自然科学技術研究科に在籍する工学系の修士1年生と修士2年生である。そのアンケート結果（資料3）にある「4. 理工系英語への興味」によると、回答数に対し半数を超える学部学生及び大学院生が①理工系英語に重点を置いた英語コース（学内設置）への参加に興味を示している。一方、②英語圏の海外協定校での理工系英語コース[専門英語（理工学系英語）を海外で学ぶプログラム]については、本学応用生物科学部の学部学生173名中102名（回答数の59%に相当）が、本学工学部の学部学生90名中39名（回答数の43%に相当）がプログラムへの参加に興味を示している。この結果に基づき現在、本学は専門英語海外短期研修プログラムであるESPの開講を具体化しているが、今回のアンケート結果は、現時点でも海外での専門教育を臨んでいる学生が確実に居ることを示している。今後、本学が学部の低学年から受講可能なESL及びESPを含む国際化プログラムを推進することによって、海外で学ぶために必要なスキルと海外で学ぶマインドを持つ学生数を増やすことできる。そして、留学を伴う教育環境で学ぶJDプログラムへの進学を希望する学生を増加することができる。

本学は、平成29年12月6日から12月21日にかけて第3回となるウインタースクールを開催した。平成31年度にJDプログラムを開設することを視野に入れIITGとマレーシア国民大学から合計7名の学生を受け入れた。ウインタースクールの学生の選考に当たって、ウインタースクールの応募者に対しJDプログラムを説明した上で「IITGと岐阜大学とのJDプログラム（博士課程及び修士課程）に興味があるか」を聞いたところ、JDプログラム（修士課程）に入学可能なIITG学士学生32名中27名（回答数の84%に相当）及びJDプログラム（博士課程）に入学可能なIITG修士学生19名中12名（回答数の63%に相当）が各JDプログラムに大いに興味があることが分かる（資料4）。一般的にインドでは、学部で卒業する大学とは別の大学の修士課程に進学し、修士課程で卒業する大学とは別の大学の博士課程に進学する。そのため、IITGに在籍する学生に対する今回のアンケート結果がそのまま本JDプログラムへの希望者とは一致しないものの、今回明らかになっ

た JD プログラムに対する高い関心度を踏まえ IITG 入学学生の定員の目安（修士課程では 5 名，博士課程では 1 名）と比較すると，定員を超える受験者を十分に確保できると想定できる。

### ③ 学生納付金の設定の考え方

本専攻においては，両大学における授業料等の学生納付金の設定等について，IITG と協議した結果，検定料，入学金，授業料といった学生納付金については，それぞれの大学が定め、本専攻学生が入学手続きを行う大学において徴収することとしている。なお，本学で入学手続きを行った学生については，文部科学省の「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に示されている検定料，入学料，授業料の標準額と同額である。

また，本学入学学生に対しては，入学料及び授業料免除制度の情報を提供する。

## （２）学生確保に向けた具体的な取組状況

自然科学技術研究科工学系の領域に所属する修士課程 1 年生に対して，アンケート用紙と共に JD プログラムに関する情報（資料 1）を記載し配布（11 月初旬，340 通）することで周知を行った。また，本年度 10 月末に実施された第 69 回岐阜大学祭において，国際連携専攻を宣伝するブースを出店する計画を立て，パンフレット配布等準備を行った（資料 5）。当日は雨天になりブース展示は中止になったが，準備した資料を使って後日，学内で展示を行い，JD プログラムについて情報発信を行った。

現在，本学が設置を計画している国際連携専攻に関する情報を大学ウェブサイト（下記）に掲載している（資料 6）。

<https://www.gifu-u.ac.jp/international/>

トップ>国際交流>国際戦略>国際連携専攻（ジョイントディグリー・プログラム）：設置認可申請準備中

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### （１）人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻の設置により，東海地域とインド北東地域を中心に，日印両国の産業界を担うリーダーとなる研究開発人材を育成する。具体的には，その教育体系を通じ，機械工学と関連技術に関する専門性のみならず，異なる文化や環境に適応する力，そして文化的な違いを超えて協働し実践する力など，地域と世界を繋ぐグローバルリーダーに求められる能力を育成する。これを実現するため(i) 英語を共通言語とし双方向留学を取り入れた国際協働教育，(ii) 異文化・産業の理解と英語によるコミュニケーション能力の強化，(iii) 日印教員の共同指導による博士論文研究を通じた実践的な問題発見・解決能力の強化を行う。本専攻に所属する両大学の教員は，互いに密に連携して共同研究などを積極的に実施し，国際的にも高い水準の教育・研究体系とすることを目指す。この専攻で志向する国際性の涵養は，単にグローバルに活躍できる人材を養成するだけでなく，双方の地域や産業を牽引するリーダーとして必要な資質を真にそなえたグローバルリーダーの養成をめざすものである。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

近年インドは人件費が安価であることからグローバル企業の製造拠点として注目を浴びており、中国からインドに製造拠点を移転させる日本企業も増えている。2014年時点のデータによると、製造業における1時間あたりの平均人件費は、中国が3.52ドルであるのに対しインドは0.92ドルであった。一方で、インドの製造業は未だ発展中の産業であるため、製造技術や製造能力等の多くの課題が存在する[1]。中でもIITGのあるアッサム州を含むインド北東部の8つの州は、最も開発の遅れた地域の一つである。しかしながら、インド政府が掲げるアクトイースト政策により、東南アジアと陸路で結ぶゲートウェイとして、あるいはミャンマー、バングラデシュとの国境貿易の拠点として、この地域の発展を期待されている[2]。インド北東州における道路網の整備については、日印首脳による共同声明(日印ヴィジョン2025 特別戦略的グローバル・パートナーシップ)の中で、安倍総理が協力を表明している[3]。

このように、インド北東部は、近い将来、東南アジアとインド周辺諸国を結ぶ物流の重要拠点となることが見込まれ、地域の発展が大いに期待できる。また、日本の経済産業省は、製造業分野においてインドが掲げる「メイク・イン・インディア」「スキル・インディア」に貢献するため、「ものづくり技能移転推進プログラム」を促進し、両国の官民連携の下、人材育成に関する協力について覚書に署名している[4]。

一方、本学がある東海地域(長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)は、総面積(国土の11.4%)、人口(全人口の13.6%)、地域内総生産(全国比14.1%)などから全国に対して1割強の経済圏であるが、製造品出荷額は全国の四分の一を占めており、わが国随一の「ものづくり圏」である[5]。中部経済産業局が行った地域経済産業調査の企業コメント[6]では、中小製造業の声として、「海外展開もしているため、優秀な人材を確保したいと考えている。」「海外事業所で設計者として活躍できる人材を新規採用したいが、学生は大企業志向が強く、苦勞している。」などがあげられている。このように、大企業のみならず中小企業においても海外で活躍できる専門性の高い工学系の人材が求められている。また最近の中部経済連合会が行ったインド視察団派遣[7]や東海地区の製造業企業のインド進出[8,9]の動きから、今後、インドを相手に活躍できる人材、すなわちインドの文化・習慣を理解し、かつ高度な専門知識と技術を有する工学系人材が東海地域の産業界にとってますます重要になると予測される。

[1] インド進出支援ポータルサイト(2016/10/13)<http://www.india-bizportal.com/industry/electronics/p22368/>

[2] 日本経済研究センター(2013/7/18) <http://www.jcer.or.jp/column/yamada/index509.html>

[3] 外務省 HP (H27.12.12) 日印ヴィジョン 2025 特別戦略的グローバル・パートナーシップ

[4] 経産省 HP (H28.11.11) <http://www.meti.go.jp/press/2016/11/20161111001/20161111001.html>

[5] 政策会議、地域の成長戦略に関する意見交換会 東海産業競争力協議会提出資料 TOKAI VISION～世界最強のものづくり先進地域～ [http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/ss\\_ikenkoukan/tokai.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/ss_ikenkoukan/tokai.pdf)

[6] 中部経済産業局「第47回地域経済産業調査(平成25年10-12月期)(平成26年1月29日公表)」  
[http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/data/25\\_10\\_12tokai.pdf](http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/data/25_10_12tokai.pdf)

[7] 日本特殊陶業 インド、北米で新工場検討、中部経済新聞(2017/1/4)

[http://www.chukei-news.co.jp/news/201701/04/articles\\_28829.php](http://www.chukei-news.co.jp/news/201701/04/articles_28829.php)

[8] 愛三工業 インド部品メーカーへ技術支援、中部経済新聞(2017/2/6)

[http://www.chukei-news.co.jp/news/201702/06/articles\\_29033.php](http://www.chukei-news.co.jp/news/201702/06/articles_29033.php)

[9] 中部経済連合会「インド経済視察団」(2016/11/13～20)  
<http://www.chukeiren.or.jp/news/2016/06/111320.html>

添付資料

- 資料 1 国際連携専攻についてのアンケート様式
- 資料 2 国際連携専攻についてのアンケート集計結果
- 資料 3 専門英語海外短期研修プログラム（ESP）のニーズ調査アンケート
- 資料 4 IITG 在籍学生の JD プログラムへの興味に関するアンケート
- 資料 5 第 69 回岐阜大学祭におけるブース展示のチラシ
- 資料 6 大学ウェブサイトに掲載中の国際連携専攻に関する情報

## 国際連携専攻についてのアンケート

SURVEY QUESTIONNAIRE – PhD Joint Degree Programs at Gifu University

大学院工学研究科では、国際化の推進と教育研究力のさらなる向上を図るため、2019年度（平成31年度）に、海外協定校のマレーシア国民大学（マレーシア）およびインド工科大学グワハティ校（インド）と各々協働し、2つの国際連携専攻（ジョイント ディグリー プログラム）を博士課程に創設することを計画しています。つきましては別紙記載の「設置構想」をご確認の上、下記の質問に回答し、皆さんの率直な意見をお聞かせください。

The Graduate School of Engineering is currently planning to newly start two international joint degree (JD) programs with our overseas partner universities in April 2019 as Int'l Joint Dept. of Integrated Mechanical Engineering with Indian Institute of Technology Guwahati (IITG) and Int'l Joint Dept. of Materials Science and Engineering with the National University of Malaysia (UKM). To help us make the programs better, please kindly take the time to fill in the following questionnaire.

## [注意事項]

- このアンケートは設置構想にかかわる基礎的資料として活用するために実施しており、その目的以外には使用しません。The information obtained in this survey will not be used for any purpose other than stated above.
- 回答の内容により、不利益を被ることは一切ありません。Whatever you answer in this survey will not cause any disadvantage to you.
- 別紙の「設置構想」を必ず確認してから回答してください。The information on page 2 is not available in English. If you would like to know more about the programs, please contact GPO at gpo@gifu-u.ac.jp.

## 記

## ①(1) あなたは日本人学生ですか？それとも留学生ですか？

Are you a Japanese student or international student?

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. 日本人学生         | 2. 留学生                |
| Japanese student | International student |

## (2) あなたは大学院修士課程グローバルコース(AGP または GU-GLEE)の学生ですか？

Are you a graduate student enrolled in a global program (AGP or GU-GLEE)?

- |            |  |
|------------|--|
| 1. いいえ No. | 2. はい Yes. (→Please circle one: AGP or GU-GLEE.) |
|------------|--|

## ① あなたの性別をお答えください。What is your gender?

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. 男 Male | 2. 女 Female |
|-----------|-------------|

## ② 今後の進路として、当該専攻への進学についてどう思いますか？

Are you interested in studying in one of the JD programs for PhD?

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1. 大いに興味・関心がある     | Very interested. |
| 2. やや興味・関心がある      | Interested.      |
| 3. 今のところ特に興味・関心がない | Not so much now. |

## ③ 質問②で3. と回答した方。→ 以下のことがあれば進学してみたいと思いますか？

If your answer for Q② is 3, would you be interested in the JD programs if any of the followings are available? (複数回答可 You may select multiple answers.)

- |   |  |
|---|--|
| 1. 英語の添削指導など語学支援<br>Language assistance (English proofreading)                    | 4. インターンシップ制度<br>Internship opportunity      |
| 2. 卒業後の就職支援<br>Career assistance for a job after PhD                              | 5. 専攻の詳しい内容(研究分野等)<br>Internship opportunity |
| 3. 経済的支援(授業料減免、奨学金等)<br>Financial assistance (tuition waiver, scholarships, etc.) | 6. その他( )<br>Others                          |

## ④ 本学のグローバル化への取り組みについて、ご意見等あれば教えてください。(自由記述)

Please feel free to give us your opinion on our globalization efforts at Gifu University.

Thank you for your feedback!

【アンケートにご回答いただく前に、必ずお読みください】

※ 本構想は「申請(認可)」前の内容であり今後、変更することがあります。

岐阜大学・マレーシア国民大学 ジョイント ディグリー プログラムおよび  
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 ジョイント ディグリー プログラム設置構想

-----概要-----

- ◇ 専攻名: 工学研究科 博士課程  
岐阜大学・マレーシア国民大学(UKM)国際連携材料科学工学専攻  
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校(IIT-G)国際連携統合機械工学専攻
- ◇ 開設時期: 2019年(平成31年)4月
- ◇ 入学定員: 各専攻2名
- ◇ 授与学位: Ph.D. ※1枚の学位記を両大学連名で授与
- ◇ 学籍: 岐阜大学とUKM または IIT-G の両方に籍を置く(二重学籍)
- ◇ キャンパス: 岐阜大学および UKM バンギ キャンパス(クアラルンプール(マレーシア))  
岐阜大学および IIT-G(グワハティ(インド))
- ◇ 標準修業年限: 3年  
※修学期間中、海外協定校(UKM か IIT-G)へ留学し研究できる機会あり
- ◇ 使用言語: 英語

-----背景-----

岐阜大学は国際化を促進させ、東海地域の活性化とさらなる発展を担う拠点大学を目指しています。東海地域は、グローバル展開しているものづくり企業が多く、今後さらに発展していくためには「地域と世界をつなぐ」役割を担う次世代リーダーの養成がとて重要です。このことをふまえ、大学院工学研究科博士課程は、本学の海外協定大学でアジアの中核的な役割を担うマレーシア国民大学(UKM)およびインド工科大学グワハティ校(IIT-G)と連携し、企業も参画するリーダー養成プログラムとして、2つの国際連携専攻(JD)を開設します。

-----この専攻で学ぶメリット-----

国際連携専攻は、岐阜大学と海外協定校(UKM か IIT-G)の両方に在籍して修学し、博士課程が修了できるともユニークで国際性あふれる大学院教育環境で、そのメリットを活かし先進的かつ独創的な研究に取り組むことができます。修学期間中には海外協定校へ留学する機会がありますので、研究や人脈の幅を広げることができ、コミュニケーション能力も高めることができます。また可能な範囲で経済的支援も現在検討中です。博士の学位は、岐阜大学と海外協定校(UKM か IIT-G)の両大学の連名で授与され、たいへん国際性が高い価値あるものです。また本プログラムの特色の1つである、デザイン思考を取り入れた博士研究を実施することで、地域や国際的な場面でプロフェッショナルなリーダーとして、自信をもって活躍できる真の実践力も身につけることができます。経済発展著しいアジアを舞台に学べるとも魅力的な博士課程プログラムです。

工学研究科（博士課程）国際連携材料科学工学専攻・国際連携統合機械工学専攻についてのアンケート集計

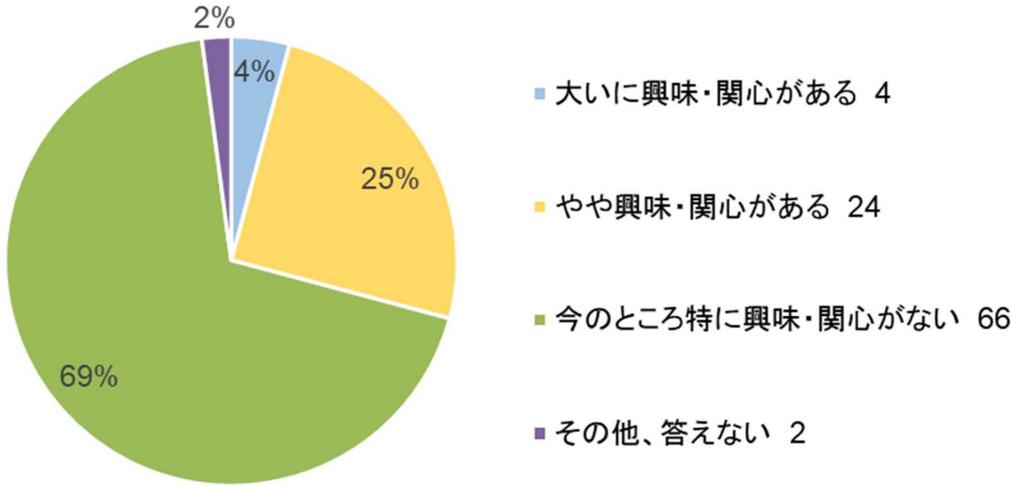
自然科学研究科修士課程工学系学生（1年次）にアンケートを実施。340通を配布し、96名の回答を得た。

【回答者基本情報】

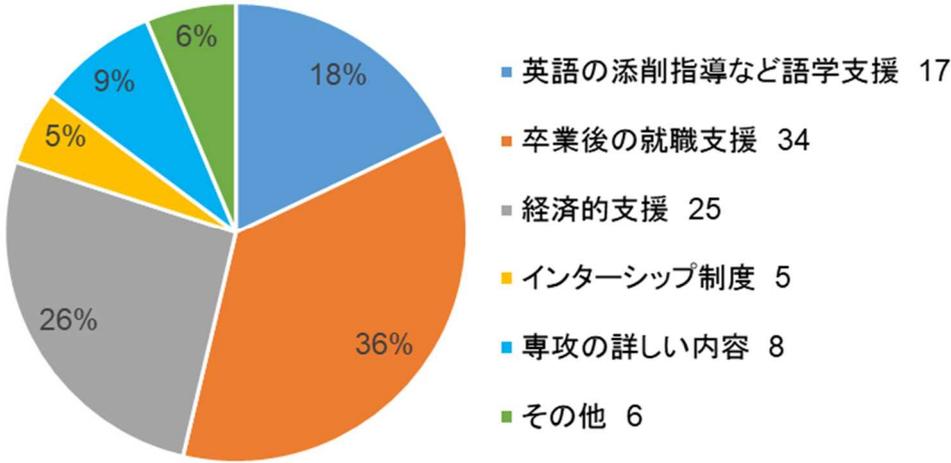
性別				グローバルコース (英語コース)ですか？	
男	77	日本人学生	88	いいえ	87
女	19	留学生	8	はい	9

【アンケート結果】

●今後の進路として、国際連携専攻への進学についてどう思いますか？ ※数字は人数



●上記の質問で、「今のところ特に興味・関心がない」と回答した場合、どの様なサポートがあれば進学してみたいと思いますか？（複数回答可）

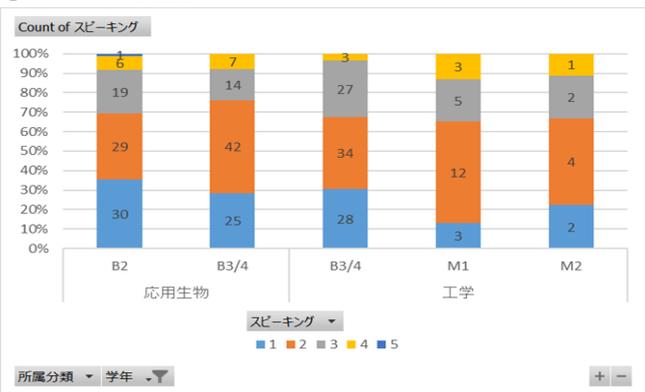


## 理工系英語に関するアンケート（2017年）

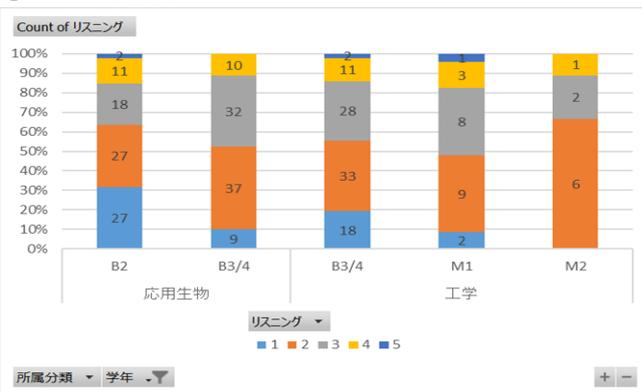
ESP（専門英語海外短期研修プログラム）のニーズ調査として実施したアンケート、「ニーズ分析調査：理工系学術英語」の一部を抜粋し再編。アンケートは2017年6月頃にプログラムコーディネータのレイモンドコウ先生を中心に実施された。

### 1. 英語の自己認識レベル（1（低い）< 5（高い）、-は回答無し）

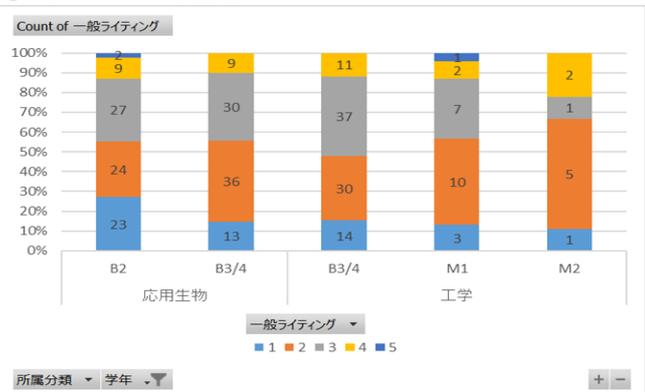
#### ①スピーキング能力



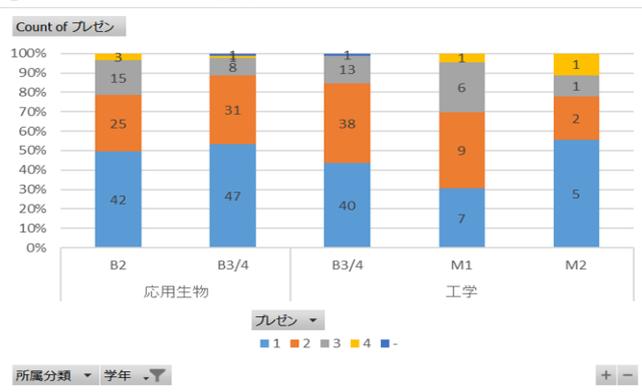
#### ②リスニング能力



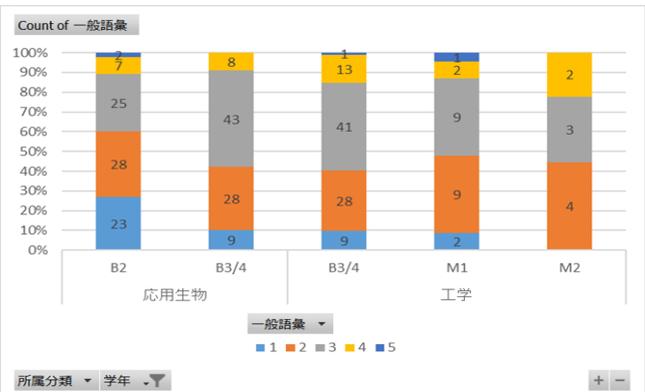
#### ③一般ライティング能力



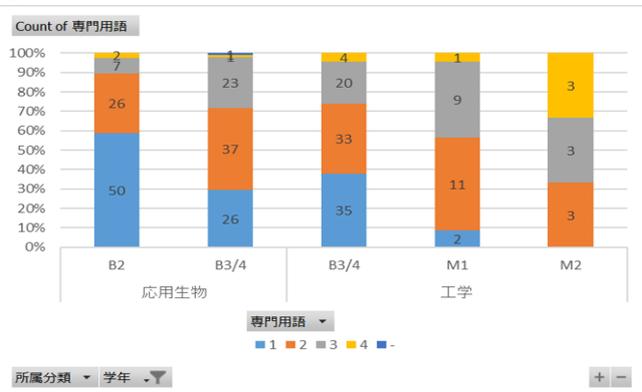
#### ④プレゼンテーション能力



#### ⑤一般語彙習得レベル

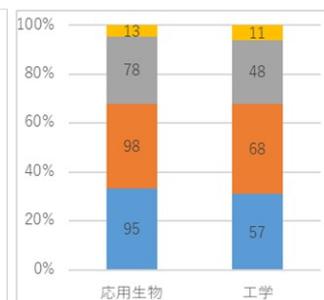
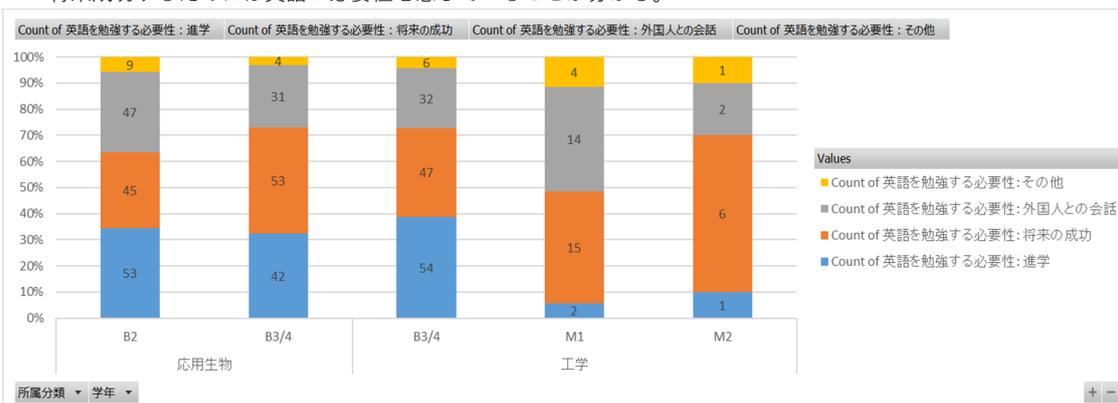


#### ⑥専門用語習得レベル



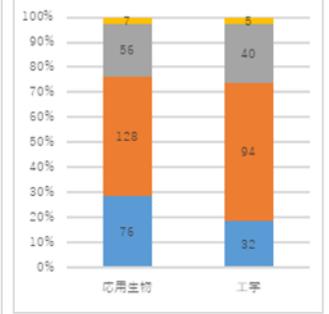
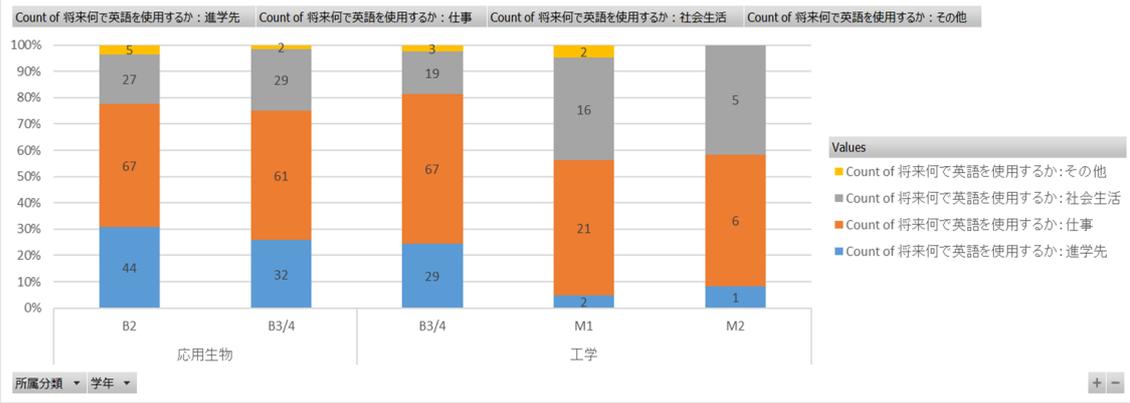
### 2. 英語を勉強する必要性

※必要性に関しては応生、工学系共に割合から見て大きな変化は無いが、工学系で調査した修士学生と学部学生を見ると、修士課程中に、将来成功するためには英語の必要性を感じていることが分かる。



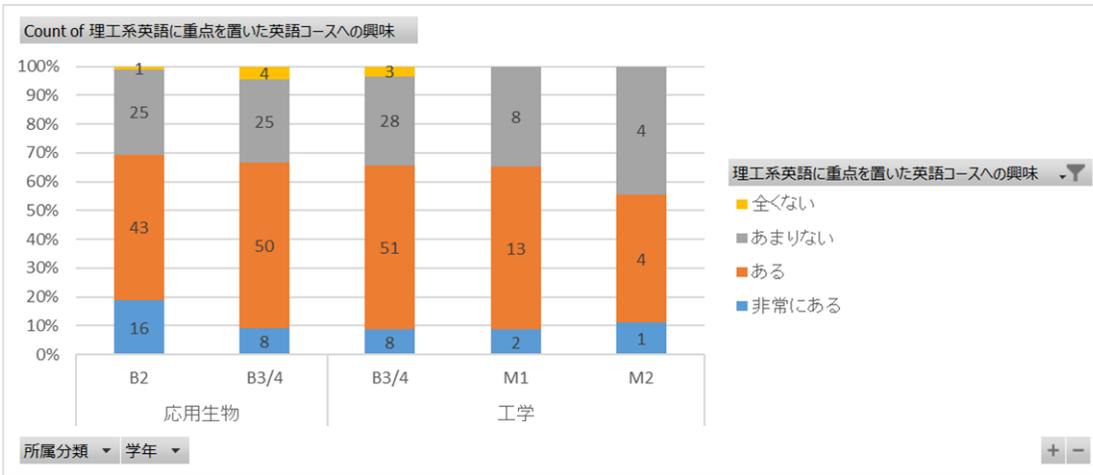
# 理工系英語に関するアンケート（2017年）

3. 将来何で英語を使うか ※応生の方が進学時での英語の必要性を感じる傾向が高く、工学では将来の成功のために必要と感じる傾向が高い。



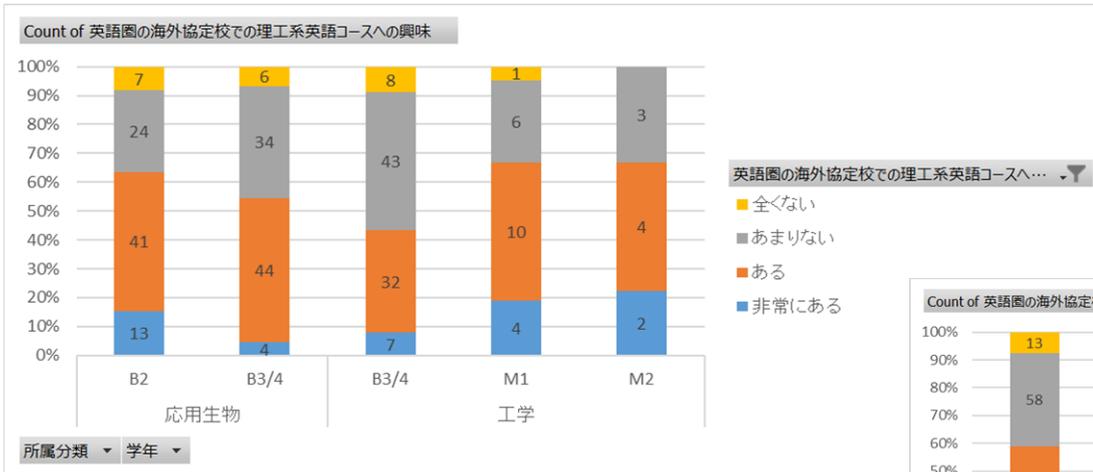
## 4. 理工系英語への興味

①理工系英語に重点を置いた英語コースへの興味（学内）



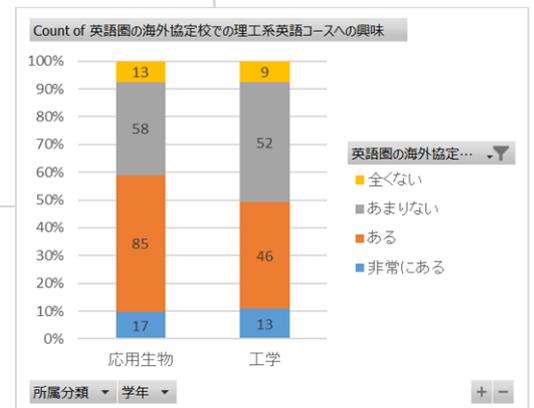
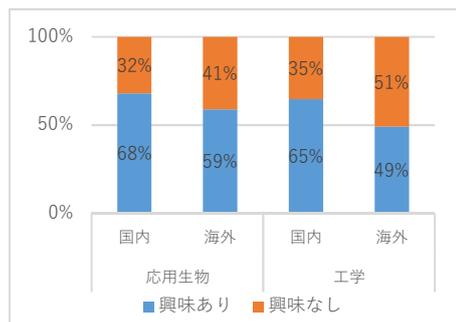
※学内で実施する専門英語（理工学系英語）に重点を置いた英語プログラムに対する興味は、応生及び工学に置いて半数以上の学生が興味があるとされている。部局間の差はさほど見られない。

②英語圏の海外協定校での理工系英語コースへの興味（ESPプログラムのニーズ）



※専門英語（理工学系英語）を海外で学ぶプログラムに関して、応生の方が工学より関心が高い傾向にあるが、工学系においては、修士になると関心が高まる傾向が窺える

③学内と学外（海外協定大学）での専門英語習得プログラムへの関心度の比較 ※①、②を使用。



質問: IITGと岐阜大学との間のJDプログラム(博士課程と修士課程)に興味があるか?

Q. Are you interested in the Joint Degree Program (PhD, Master) between IIT-G and Gifu University?

集計	
1 Very much interest 大いに興味がある	43
2 Somewhat interested ある程度興味がある	7
3 Not interested at this point 現時点では興味がない	3
BLANK 無回答	2
計	55



#### 教育課程別の回答

	1 大いに興味がある	2 ある程度興味がある	3 現時点では興味がない	無回答	計
<b>学士</b>	<b>27</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	1	32
<b>修士</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	1	19
<b>博士</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	0	4

↓  
割合で見た場合  
↓

	1 大いに興味がある	2 ある程度興味がある	3 現時点では興味がない	無回答	計
<b>学士</b>	<b>84%</b>	<b>9%</b>	<b>3%</b>	<b>3%</b>	100%
<b>修士</b>	<b>63%</b>	<b>21%</b>	<b>11%</b>	<b>5%</b>	100%
<b>博士</b>	<b>100%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	<b>0%</b>	100%



2017年10月29日(日)

岐阜大学学祭会場 南駐車場

グローバル推進本部出店ブース:

⑧ JOINT DEGREE(ジョイント・ディグリー)プログラム: 国際協働学位専攻を設置予定の協定大学を紹介)

⑫ インドの匠(アツサム)地方のテイストのインドカレーを提供してます!!!

岐阜大学 MAP



⑧

**JOINT DEGREE**  
 そうだ! インド・マレーシア  
 に行こう!  
 お気軽に立ち寄ってください☆  
 ~海外留学で差をつける~

Shop info.

⑫

**インドの匠**  
 インド北東部の美味しい  
 カレーを用意して  
 お待ちしてます!!!  
 ~食から体感!  
 岐阜大学の国際化~

インド工科大学グラハナ校 (IITG)

マレーシア国民大学 (UKM)



ASEAN 経済の要国 **マレーシア**  
 将来の世界第一位人口・経済となる **インド**  
 ...今から視野に入れてみませんか?

※売上の一部は大学基金の国際交流にあてられます。



大学案内	学部 大学院	附属施設 図書館	入試案内	教育 学生生活	就職 進路	研究 産官学連携
------	-----------	-------------	------	------------	----------	-------------

| 受験希望の方へ

| 在学生・保護者の方へ

| 卒業生の方へ

| 地域の方へ

[トップ](#)
[国際交流](#)
[国際戦略](#)
 国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)：設置認可申請準備中

## 国際交流

### 国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)：設置認可申請準備中

#### 国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)設置(予定)について

岐阜大学は、国際化の推進と教育研究力のさらなる向上を図るため、平成31年度に海外協定大学の**インド工科大学グワハティ校** (IITG) および**マレーシア国民大学** (UKM) とそれぞれ協働し、4つの国際連携専攻を開設することを計画しています。

※設置認可申請準備中

専攻名(仮称)	相手大学[国]	学位	標準修業年限	使用言語
国際連携食品科学技術専攻	IITG [インド]	修士	2年	英語
国際連携食品科学技術専攻	IITG [インド]	博士	3年	英語
国際連携統合機械工学専攻	IITG [インド]	博士	3年	英語
国際連携材料科学工学専攻	UKM [マレーシア]	博士	3年	英語

※上記の内容は予定であり、変更する場合があります。

#### 想定される国際連携専攻の学年進行

国際連携専攻とは、本学と海外協定大学がそれぞれの強みを活かしたカリキュラムをもとに、共同で作成する教育プログラムです。学生は標準修業年限の中で、一定期間を相手大学で学びます。留学を伴う国際的

な教育環境の中で講義履修および研究活動を行い、在学期間を延長することなく日本と海外における2大学の連名で、単一の学位を取得することができるよう計画しています。

### どのように学ぶのか：修士学生の例

	1年次												2年次															
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
インド 工科大学 入学 の学生				入学	期間1 食品技術を 学ぶ インド				期間2 インキュ ベーション 期間 インド			期間3 食品科学を 学ぶ 岐阜			期間4 修士論文研究 インド				期間5 修士論文研究 インド			学位 審査 インド					終了	
岐阜 大学 入学 の学生				入学	期間1 食品科学を 学ぶ 岐阜			期間2 食品技術を 学ぶ インド			期間3 インキュ ベーション 期間 岐阜			期間4 修士論文研究 岐阜				期間5 修士論文 研究 岐阜			学位 審査 岐阜						終了	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	1年次												2年次															

#### 岐阜大学入学生の場合・・・

- (1) 4月から7月まで岐阜で講義履修と研究を行う（期間1）。
- (2) その後、インドに飛び、8月からインドで講義履修と研究を行う（期間2）。
- (3) 岐阜に戻ったあと、研究を行い、インド入学学生とビデオ会議で研究討論する（期間3）。
- (4) 岐阜大学とインド工科大学の先生からの共同研究指導の下で研究を進める（期間4と5）。
- (5) 学位審査を受けて学位を取得する！

#### 特徴

同年度に入学した日印の学生が共に学びあう期間が8か月ある（□の期間）。

### この専攻で学ぶメリット

国際連携専攻は、本学と海外協定大学（IITGまたはUKM）の両方に在籍して修学し、修士課程あるいは博士課程を修了できる国際性あふれる大学院教育環境を提供する予定です。

### 日本と海外の学位が一度に取得できます

#### ジョイント・ディグリープログラムで 取得できる共同学位が意味するもの

両大学から質保証された  
学位取得者



国際通用性がある修士号・博士号取得者  
という社会的地位を得る



就職先  
国際展開する企業  
国際的・研究機関



学位記のイメージ

(参考)

国際的な研究機関  
国内外の高等教育機関  
など

協正大学への留子  
⇒学位は本学からのみ授与  
ダブル・ディグリープログラム  
⇒両大学から別々の学位を授与

### 語句説明

#### <ジョイント・ディグリー (JD) >

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。大学設置基準等の改正により、連携する外国の大学との連名による学位の授与を認められることになった。

#### <プログラム>

一つ又は複数の大学が、大学、学部及び学科、又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設又は共同して開設し、体系的・計画的に編成された一連の教育課程であって、学生がその教育課程を適切に修了したことを厳正に評価し、もって学位の授与又は履修の証明をすることを目的とするもの。

#### <カリキュラム>

一つ又は複数のプログラムの実施に際し、それらを実現するものとして、一つまたは二つ以上の大学により提供される授業科目や研究指導等の体系。

【引用】中央教育審議会「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」（平成26年11月14日）より抜粋・一部改変

[アイコンの詳細説明](#)

[内部リンク](#)

[独自サイト](#)

[外部リンク](#)

[ファイルリンク](#)

[大学案内](#) | [学部・大学院](#) | [附属施設・図書館](#) | [入試案内](#) | [教育・学生生活](#) | [就職・進路](#) | [研究・産官学連携](#) | [地球](#)

[個人情報取り扱いについて](#)

[このサイトについて](#)

国立大学法人 岐阜大学 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL (058)230-1111 (代表)

Copyright ©